

問

子どものSOSにどう応えるか

教育長

実態の把握を急ぐ



いづみ 泉

ゆみ 愉美 議員

食欲の秋。
みんなで太れば
怖くない。

「生理の貧困」問題

問 経済的な理由や家族の無理難題などで、生理用品を満足に使えない「生理の貧困」が社会問題となっている。

答 町の学校での対応は、町の予算で購入した生理用品を保健室に置き、必要とする児童生徒に個別配布している。

トイレ個室に配備を

問 短い休み時間に保健室へもらいに行くのは不便。また、恥じらいから生理用品の交換回数減らす子どもがいる。女子トイレ個室の中に備えることはできないか。



女子トイレ個室に生理用品を

答 学校の実態を把握しながら、安全面・衛生面などを考慮し、総合的に検討する。

町の施設にも配備を

問 生理の貧困については、既に多くの自治体で支援の取り組みを始めている。無料配布のほか、防災備蓄品からの提供も考えてほしい。学校のほか、プールやスポーツセンター、図書館など子どもの利用が多い施設にも備えられないか。

答 社会教育施設全体のトイレについても検討していく。

ヤングケアラーは

いるか

問 この町にもヤングケアラーは存在するかもしれない。実態はどう把握すべきか。

答 子どものSOSを見逃さないための対策として、スクールカウンセラーを活用し、子どもや保護者へのカウンセリングを行い、気軽に相談できる環境づくりに取り組んでいる。

一〇メモ

ヤングケアラー

通学のかたわら、障がいや病気のある親や祖父母、年下のきょうだいなどの介護や世話をしている18歳未満の子ども。

ヤングケアラーはこんな子どもたち



料理などの家事

きょうだいの世話

家族の介護

トイレや入浴の介助

問 今後ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合の対応は。

答 要保護児童対策地域協議会を開催し、子どもの実態を把握したうえで、学校や関係機関と連携を取り、情報共有し見守りと支援を行っていく。

問 子どもが子どもらしい暮らしをできる町であってほしい。子どもがケアを担わなくても済む施策を今から練っておくべきでは。

答 細かな把握をしなければならぬ時期が来ている。

たとえひとりの子どものためであっても、関係機関が連携し、バックアップしていきけるよう対応を急ぐ。

問 北海道で行われたヤングケアラーの実態調査の回答内容は。

答 中学生が対象だが、ウェブで個々に回答しているもので、内容は把握していない。

学校としての回答もあったが、ヤングケアラーはいないと答えている。



こちらから泉議員の一般質問を視聴できます